

特別シンポジウムCS01

理事会企画シンポジウム「薬物乱用防止について薬学研究者・薬剤師が知っておくべきこと」

山田 清文¹, 筒井 啓徳²

¹名大病院薬, ²大塚製薬

CS01-1 日本薬学会の社会貢献

○松木 則夫¹

¹日本薬学会会頭

薬物乱用は止まることを知らず、拡大の一途である。従来は、シンナー遊びなどから段階を経てエスカレートするケースが多かったが、入手が容易なことからいきなり大麻や覚せい剤に手を出す事例が増えている。若年層への広がりも顕著で、大麻取締法違反で検挙される大学生がしばしば報道されている。マスコミでも大きく取り上げられているが、芸能人の動向が中心で、薬物乱用防止の観点は弱く、「なぜ大麻や覚せい剤を使用してはいけないか」という説明が不十分で説得力に欠けている。さらに、資料映像として映し出される注射器や白い粉は、薬物乱用から立ち直ろうとしている人々には、「薬物への誘い」のメッセージしか伝わらない。インターネットなどで大麻種子の入手は容易であり、誤った情報が氾濫している。一部の日本薬学会会員は薬物防止に積極的に取り組み啓発活動に参画してきたが、日本薬学会としては目立った活動はしてこなかった。社会貢献は公益法人として重要な活動であり、日本薬学会を広く認知してもらうためにも積極的な取り組みが望まれる。しかし、薬学関係者の中にも覚せい剤や大麻についての知識があいまいな人が多い。本シンポジウムは、薬学会関係者が社会貢献をするための前段階として、薬物乱用に対して正しい現状把握と正確な専門知識を薬学関係者に周知することを目的とする。